

家庭内での男女共同参画

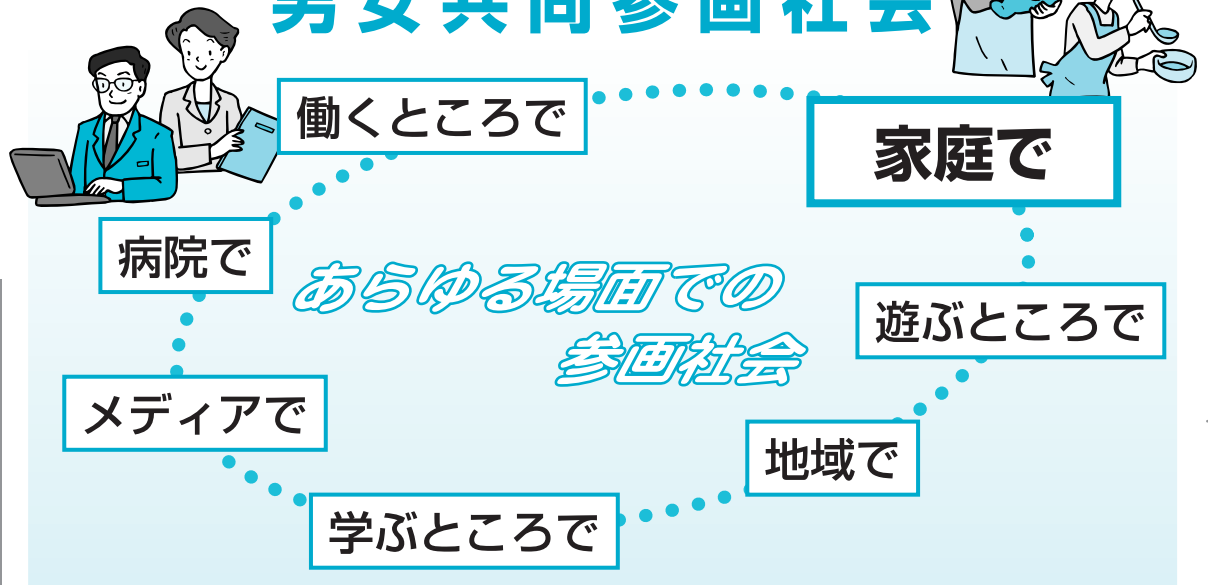
理想と現実!?

ごころ
思っている
実際は...

平成17年に、横須賀市が市民を対象におこなった『男女平等に関する意識調査アンケート』によると、炊事・洗濯・掃除など日常の家事、さらに育児や介護について、「夫と妻で半々ずつ分担する」を理想とする人が、女性が6割、男性でも4割以上を占めました。ところが7〜9割程の家庭で「主に妻」が家事を担っているというのが現状です。理想と現実がかなりかけ離れている数字、ここから日本社会の男女のどのような関係を読み取るべ

きなのでしょう。もちろん家庭内の役割分担についても、夫婦の年齢層や共働き世帯、環境等によってもかなり考え方の違いがあるでしょう。なによりもそこには、男性の働き方の現実、したくてもできない事情が映し出されているというべきかもしれません。そこで今回は、家事という生活に与ってなくてはならない営みに対する、影にひそんだ男女の意識のちがひについて、身近な証言を集めてみました。

男女共同参画社会



男女共同参画社会とは、男女が対等な立場で自らの意思によって家庭や職場など社会のあらゆる活動に参画でき、均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を各人が受け、なおかつ共に責任を負うべき社会のことをいいます。男女がお互いに人権を尊重し、それぞれの個性と能力を十分に発揮できるフェアな社会を意味します。男女双方のメリットになるだけでなく、老若男女全ての人が生きてすみやすい社会にすることもできます。今の日本が抱える問題に対して、男女共同参画社会の実現はそれらの解決策の一つになります。

証言3 (30代女性)
私も夫も恥ずかしなから結婚するまで身の回りのことは親まかせでした。家事の技術的なスタート地点も仕事の時間も同じだったのので、効率性を追及しお互い協力しあいました。10年たった今でも、掃除や買い物と一緒にしています。食事の支度は私のほうにこだわりますが、洗い物は夫のほうに上手です。

証言4 (60代男性)
妻はボランティアやサークルで外出がち。ほとんど私が留守番をしています。食事は妻が用意していつてくれます。先日たまたま、洗濯物を取り込んでいたら近所のご婦人に「あら、そんなこと奥様にさせられるの？」って道路から声をかけられました。これにはまいったなあ。私自身はなんとも感じなかったけど、世間の目って結構根深い偏見が残ってるんですね。

証言5 (40代女性)
専業主婦にとって、家事はどうしたら家族が快適に過ごせるかを考えるサービス業。だから家族がいる朝と夜はもっとも忙しい勤務時間、真っ只中だし、主婦に土日祝日はないと思ってる。それに夫は家族のために一生懸命働いてくれるのだから、できるだけ夫の意見や要望に沿うよう努力している。でも、それ以外の空いた時間は、堂々と自分のためだけに使う。もちろん夫が家事を分担してくれたら助かるけれど、それは今のところ、ちょっと贅沢な希望にも思える。

証言2 (60代男性)
退職後、たまたま作ったカレーが家族に大うけ。それが最高に気分よくなって、以来三度三度、食事を作るようになった。妻は心置きなく趣味の絵画に没頭できて、「パパがリタイアしてくれて本当に助かる」と有難がられています。料理を作るのってクリエイティブで案外楽しいし、こんなことなら働いている時から、もっと家事の習慣をつけておけばよかった。もちろん買物だって一人で行きますよ。

証言1 (20代女性)
その時、その時で最善の道をと夫婦で決めました。そこで、よく話しあった結果、せめて幼稚園までは私が仕事を中断して、子育てに専念することにしました。もちろん二人の生活設計なので、夫も帰宅後や休日は育児、家事ともにできる限りのことをしてくれています。



家庭内の役割分担 - その他のアンケート結果 -

炊事以外の家事についても、「夫と妻が半々で分担する」ことを理想とする回答が他の選択肢を大きく上回るものの、実際は主に妻が行っている家庭が多いようです。

現実	理想
子どもの身のまわりの世話 主に妻が担う：約65% (夫と妻が半々で分担：約10%)	<p>「夫と妻が半々で分担する」 (約55%)</p>
高齢者等の介護 主に妻が担う：約28% (夫と妻が半々で分担：約14%) <small>「該当しない」回答が50%以上あり</small>	
地域活動(自治会・PTAなど) 主に妻が担う：約48% (夫と妻が半々で分担：約19%)	

横須賀市男女平等に対する意識とニーズに関する調査報告書から作成

あなたの周りからも、こんな声は聞こえてきませんか?

「男は外で仕事、女は家庭」という考え方は、女性は家庭的責任を担う事によって職業生活や社会への参加が不十分になり、結果的に自分の意見を社会に反映していくことを難しくします。一方男性は仕事中心の生活を余儀なくされ、時には健康を害する恐れさえ生じてしまいます。性別で役割を決めることは、女性だけでなく男性にとっても多様な生き方の選択を狭めることとなります。では現実に向っていったらよいか、どういう方向に向っていったら幸福になるのか、まだまだ、みんなが模索中の『男女共同参画』。まずは自分はどうしたいかを考え、家族の中でお互いが何を望み、どう実践していくかを話し合う事から始めてみてはどうでしょう。そして働く場や学習の場、地域へと少しずつその輪をひろげ、近い将来、みんながわけへだてなく穏やかな気持ちで暮らせる社会が実現できるように、身近なところから変えていってはいかがでしょうか?

家庭内の役割分担 - 炊事の担い手 -

現在、夫婦または恋人等と一緒に暮らしている人(男女別)を対象とした家事などの日常的な分担の現状と理想のアンケート結果

性別	現実	理想
女性	主 ¹ に妻 89% 夫婦半々 9% その他 2%	主 ¹ に妻 36% 夫婦半々 56% その他 8%
男性	主 ¹ に妻 82% 夫婦半々 13% その他 5%	主 ¹ に妻 51% 夫婦半々 42% その他 7%

その他：「主に夫」「夫妻以外の家族」「該当しない」の合計値を示します。

現状では、8割以上の家庭で「主に妻」が炊事の担い手となっています。これに対して「夫と妻で半々」が望ましいと考えている人は女性で6割、男性でも4割を超えています。

横須賀市男女平等に対する意識とニーズに関する調査報告書から作成

データ出典：平成18年 横須賀市男女平等に対する意識とニーズに関する調査報告書
参考文献：平成18年 男女共同参画に広報啓発に関する研究会 男女共同参画の広報のために